様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　6　月　4　日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2006～2009
課題番号：18401026
研究課題名（和文）　アフガニスタン・ハザラジャートにおける仏教伝播の調査研究

研究課題名（英文）　Research of the transmission of Buddhism in Hazarajhat, Afghanistan

研究代表者
入澤　崇（IRISAWA TAKASHI）
龍谷大学・経営学部・教授
研究者番号：10223356

研究成果の概要（和文）：アフガニスタン中央部バーミヤーンを中心としたハザラジャート地域において仏教がどの程度広がりをもっていたか、またバーミヤーン以西へどれほど仏教が及んでいたかについて現地調査を行った結果、8 世紀前半にバンデ・アミール川流域に仏教が及んでいたことが判明した。

研究成果の概要（英文）：The western area of Bamiyan Province in Hazarajhat has been neglected from the stand point of the transmission of Buddhism. Researching the unknown sites near Band-e Amir River, several Buddhist remains were discovered.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	5,400,000	0	5,400,000
2007 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2008 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2009 年度	2,600,000	780,000	3,380,000
年度			
総　計	13,200,000	2,340,000	15,540,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：仏教伝播、石窟、仏塔、交易路、バーミヤーン

１．研究開始当初の背景

これまで、アフガニスタン中央部への仏教伝播はバーミヤーンが西限として語られてきたが、2003 年以降バーミヤーン西方で仏塔や石窟が確認され、アフガニスタン中央部における仏教の広がりについて検証する必要性が生じていた。バーミヤーン以西への仏教伝播に関する研究はほとんどなされていない状況であったため、調査に赴き詳しい検証をなすこととした。

２．研究の目的

仏教の西への伸長はかつてほとんど注目されることはなかった。わが国の仏教研究はインドで生まれた仏教がいかにして日本へ到達したか、いわゆる「仏教東漸」研究に終始してきた。仏教の西限はトルクメニスタンのメルヴ遺跡にあるギャウル・カラ寺院址とされる。しかし、メルヴにどの経路で仏教が伝播したかについては何もわかってはいない。アフガニスタン・トルクメニスタンへ伝

播した仏教の性格についても詳しいことはほとんどわかっていない。西への仏教伝播を見るうえで鍵となるのはアフガニスタンである。本研究は、アフガニスタン中央部のハザラジャートにおける仏教伝播の経路及びその様相について解明することを主たる目的とした。

３．研究の方法

現地調査を中心とした。バーミヤーン以西、バンデ・アミール川流域で確認されたケリガン仏寺址、仏寺の上に城砦を築いたチル・ボルジ遺跡、4 層からなるサレスム石窟など、個々の遺跡の検証を最初に行う。第二にはバンデ・アミール川流域にどれほど仏教の広がりが確認できるか、バンデ・アミール川流域のルート調査を行うことにした。第三にはバーミヤーン及びバーミヤーン以西の遺跡が中央アジア全体でどのような位置づけにあるか、他の遺跡との比較検証を行う。第四には、仏教がどこまで西に拡大していたか、アフガニスタンよりも西に注意を向ける仏教西漸研究を行う。

４．研究成果

アフガニスタン中央部バーミヤーン以西で確認されたケリガン仏寺址、サレスム石窟、及び仏寺遺構の上に築いた巨大なチルボルジ城砦を初めて調査し、3 次元測量することに成功した。2006 年 12 月のシンポジウムで公表し、図面は 2010 年に調査の概要を知らせる写真展を行い、そこで一般公開した。

2003 年にバンデ・アミール川流域のタンゲ・サフェーダック村出土のバクトリア語碑文が解読され、8 世紀に当該地域に仏教がゆきわたっていたことが示唆されていたが、2006 年のわれわれの調査では、バンデ・アミール川上流域に未報告のクシャ・ゴラ石窟及びムシュタック石窟を発見した。バーミヤーンから西に 120km 地点のヤッカウラング近郊に仏教が及んでいたことが明らかとなり、タンゲ・サフェーダックの仏教信仰が孤立したものではなかったことが判明した。

研究の起点となったタンゲ・サフェーダック碑文にはイスラーム勢力がアフガンに進出していた時期に仏塔建立が行われていたことが記されており、「イスラームと仏教の邂逅」について改めて見直す契機をもつことができたのも本研究のひとつの成果である。諸宗教の共存を成立させた要因が何であったかを解明することは今後の大きな課題である。仏教と交渉をもった宗教の動向については主にマニ教の広がりについて吉田豊が新たな知見をもたらした。

チル・ボルジ城砦の下にある仏寺址にはバーミヤーン遺跡にみられるササン風の冠をつけた人物像がかろうじて残っており、バーミヤーンと交流があったことがうかがえる。バーミヤーン仏教文化圏と密接な関係をもつバンデ・アミール仏教文化圏を想定することができたことも大きな成果である。

バンデ・アミール川の西にはムルガーブ川がトルクメニスタンへと流れており、その下流にメルヴが位置する。アフガニスタンとトルクメニスタンとの国境付近には石窟が点在しており、バンデ・アミール川流域の石窟と共通点がみられた。しかし、相違点もあった。規模の大きい石窟エケデシクは中央に 40m近くの通路が走り、両サイドに石室をもつ特異な構造をもっており、アフガニスタンには例がない。しかし、中国・新疆ウイグル自治区クチャの石窟に類例があり、20 世紀初頭にクチャの遺跡を調査したペリオの報告書にそのタイプの石窟を見ることができる。残念ながら石窟はいま確認することができない。

仏教の伝播経路は古代の交易路を示す。仏教は交易とともにあった。アフガニスタンではかつての交易路は辺鄙な悪路で、確認するのは容易ではない。この度の調査では、バーミヤーンから西にも交易路が存在していたことをつきとめることができた。7 世紀の仏僧玄奘がバルフからバーミヤーンへ至ったが、果たしてどのルートを辿ったかはいまなお明らかでない。バンデ・アミール川流域に仏教の痕跡が辿れ、バンデ・アミール川流域が交易路であったとすれば、バンデ・アミール川流域が玄奘の辿ったルートの有力候補のひとつとなろう。バンデ・アミール川は途中でバルフ川と名前を変え、バルフへと至るのである。幸いにもバルフ川流域も踏査することができた。

バンデ・アミール川西北のサリ・プル川流域にも石窟を確認することができたが、さまざまな障害があり、詳しい調査はできなかった。しかし、調査終了後、バクトリア時代のティリヤ・テペ遺跡を訪問することができた。そこからは多くの黄金遺宝が出土したが、その中のひとつに仏像を刻したコインがある。現在のところ、この仏像が最古の仏像であり仏教美術史上大きな問題を孕んでおり、仏像起源論争に一石を投ずる。[MIYAJI：2008]で詳しい検証がなされた。

ハザラジャートを代表するバーミヤーンのまちが徹底的に破壊されたのはモンゴル勢力によってであると一般的に説明される。そのモンゴル勢力はイランにも及んだ。イランに入ったモンゴル勢力はイスラーム化し、イルハン国を樹立する。イルハン国の最初の都であるマラーゲに仏教寺院址が確認された。モンゴル勢力はイスラーム化する前は仏教徒であったのである。仏教西漸をみるうえでモンゴルの動きを考慮に入れる必要が生じ、今後の仏教伝播研究に道を開いた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

①入澤崇「イランの仏教遺跡」『印度学仏教学研究』第 58 巻第１号，pp. 215－222，2009 年，査読有.

②宮治昭「燃燈佛授記圖浮彫り」『國華』114（10），pp. 39－42，2009 年，査読有.

③Akira MIYAJI,“Iconography of the Two Flanking Bodhisattvas in the Buddhist Triads from Gandhra:Bodhisattva, siddharta, Maitreya and Avalokitesvara”,*East and West*, 58(1-4), pp.123-156,2009 年，査読有.

④吉田豊「寧波のマニ教絵画―いわゆる「六道図」の解釈をめぐって―」『大和文華』119，pp. 3－15，2009，査読有.

⑤Yutaka YOSHIDA,“Visa’Suras corpse discovered ？”*Bulletin of the Asia Institute* 19, pp.237-242，査読有，2009.

⑥Yutaka YOSHIDA,“The Karabalgasun inscription and the Khotanese Documents”, *Literalische Stoffe und ihre Gestaltung in mitteliranischer Zeit: Kolloquium anlasslich des 70 Geburtstages von Wener Sundermann*, pp.349-362，2009，査読無（招待原稿）.

⑦吉田豊「新出のソグド語資料について―新米書記の父への手紙から：西厳寺橘資料の紹介を兼ねて―」『京都大学文学部研究紀要』49，pp. 1－24，2009，査読有.

⑧入澤崇「ムルガーブ流域への仏教伝播」『印度学仏教学研究』第 57 巻第１号，pp. 89－96，2008 年，査読有.

⑨入澤崇「龍谷大学と西域学」『龍谷大学古典籍デジタルアーカイブ研究センター報告書』pp. 155－166，査読無，2008.

⑩Akira MIYAJI, Aspects of the Earliest Buddha Images in *Gandhara, South Asian Archaeology 2007 Special Sessions 1, Miscellanies about the Buddha Images,* pp.25-42，2008 年，査読有.

⑪宮治昭「仏像の成立とその背景」『シルクロード・奈良国際シンポジウム記録集』No.9，2008 年，査読無.

⑫Yutaka YOSHIDA,“Buddhist Literature in Sogdian”, *The Literature of Pre-Islamic Iran – Companion Volume I (History of Persian Literature 17)*, London，pp.288-329，2008 年，査読無.

⑬Yutaka YOSHIDA,“Brahmajara-sutra in Sogdian Aspects of Central Asian Buddhism”, *Silk Road Studies* 16, pp.461-474，査読無（招待原稿）.

⑭山田明爾「古代交易路と舎利塔」『シルクロード・奈良国際シンポジウム記録集』No.9，2008 年，査読無.

⑮入澤崇「バーミヤーン以西で新たに見つかった仏教遺跡」『印度学仏教学研究』第 56 巻第１号，pp. 256－263，2007 年，査読有.

⑯井上陽「ヤッカウラング周辺の仏教遺跡」『密教図像』26，pp. 25－37，2007 年，査読有.

〔学会発表〕（計 19 件）

①入澤崇「総括：龍谷大学アフガニスタン仏教遺跡学術調査」国際シンポジウム「人類の至宝アフガニスタン　仏教西漸」2010 年 3 月 7 日，龍谷大学深草キャンパス.

②山田明爾「川と道と遺跡と―乾燥世界の宗教建築―」国際シンポジウム「人類の至宝アフガニスタン　仏教西漸」2010 年 3 月 7 日，龍谷大学深草キャンパス.

③井上陽「バーミヤーンから西方へ」国際シンポジウム「人類の至宝アフガニスタン仏教西漸」2010 年 3 月 7 日，龍谷大学深草キャンパス.

④宮治昭「バーミヤーンの仏教石窟」国際シンポジウム「人類の至宝アフガニスタンバーミヤーンから世界をみる」2010 年 3 月 6 日，龍谷大学深草キャンパス.

⑤入澤崇「イラン北西部仏教遺跡にみられる中国文化」国際シンポジウム「東西交流の昔と今」（龍谷大学国際社会文化研究所），2009 年 10 月 31 日，龍谷大学瀬田キャンパス.

⑥Yutaka Yoshida,“Some more Manichaean Paintings from Japan”Seventh International Conference of Manichaean Studies，2009 年 9 月 11 日，ダブリン.

⑦入澤崇「イランの仏教遺跡」第 60 回印度学仏教学学術大会，2009 年 9 月 9 日，大谷大学

⑧入澤崇「仏教の西への伝播―龍大調査隊の目指すこと―」龍谷大学アフガニスタン仏教遺跡学術調査報告会「仏教西漸」，2009 年 3 月 28 日，龍谷大学深草キャンパス.

⑨山田明爾「ヴァルジュヴィ石窟」龍谷大学アフガニスタン仏教遺跡学術調査報告会「仏教西漸」，2009 年 3 月 28 日，龍谷大学深草キャンパス.

⑩井上陽「ムルガーブの石窟」龍谷大学アフガニスタン仏教遺跡学術調査報告会「仏教西漸」，2009 年 3 月 28 日，龍谷大学深草キャンパス.

⑪入澤崇「ムルガーブ流域への仏教伝播」第 59 回印度学仏教学学術大会，2008 年 9 月 6 日，愛知学院大学.

⑫山田明爾「古代交易路と舎利塔」シルクロード・奈良国際シンポジウム「インド世界への憧れ」2007 年 12 月８日，奈良県新公

会堂.
⑬宮治昭「仏像の成立とその背景」シルクロード・奈良国際シンポジウム「インド世界への憧れ」2007 年 12 月８日，奈良県新公会堂.
⑭入澤崇「シルクロード共存の道」本願寺展開催記念シンポジウム,2007 年 10 月 21 日，九州国立博物館.
⑮入澤崇「バーミヤーン以西で新たに見つかった仏教遺跡」第 58 回印度学仏教学学術大会，2007 年 9 月 4 日，四国大学.
⑯入澤崇「バンデ・アミール川流域および以西への仏教伝播の可能性」シンポジウム「仏教西漸―アフガニスタンへの歴史・考古・仏教を語る―」2006 年 12 月 23 日，龍谷大学深草キャンパス.
⑰宮治昭「バーミヤーン美術研究動向と今後の課題」シンポジウム「仏教西漸―アフガニスタンへの歴史・考古・仏教を語る―」2006 年 12 月 23 日，龍谷大学深草キャンパス.
⑱井上陽「クシャ・ゴラ石窟とムシュタック石窟」シンポジウム「仏教西漸―アフガニスタンへの歴史・考古・仏教を語る―」2006 年 12 月 23 日，龍谷大学深草キャンパス.
⑲井上陽「ヤッカウラング周辺の仏教遺跡」第 26 回密教図像学会，2006 年 12 月 2 日，名古屋大学.

〔図書〕（計 3　件）
①(ed.)Takashi IRISAWA, *The Way of Buddha,* Tohoshuppan，2010，269 頁.
②入澤崇『アフガニスタンの不思議な世界』（日本学術振興会 2007 年度「ひらめき☆ときめきサイエンス　ようこそ大学の研究室へ」），龍谷大学，2008，36 頁.
③（監修）宮治昭『ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展』静岡新聞社，2007，216 頁.

〔その他〕
入澤崇「現代のことば」
　2007 年 7 月 31 日から 2009 年 6 月 23 日まで京都新聞夕刊「現代のことば」に 12 回寄稿。その中で、「三宝を敬う世界」「ガンダーラ仏と福袋」「文明の検証」「歌が聞こえる」「テロとの戦い」「スタインの墓」「アショーカに学べ」で本研究に関わることを述べた。

調査を取り上げた新聞各紙は以下の通り。
朝日新聞（朝刊）2008 年 11 月 8 日
毎日新聞（朝刊）2008 年 11 月 8 日
読売新聞（朝刊）2008 年 11 月 8 日
日本経済新聞（朝刊）2008 年 9 月 23 日
毎日新聞（朝刊）2007 年 12 月 17 日
毎日新聞（朝刊）2007 年 1 月 4 日
京都新聞（朝刊）2006 年 12 月 14 日
朝日新聞（朝刊）2006 年 12 月 14 日
産経新聞（朝刊）2006 年 12 月 15 日
読売新聞（朝刊）2006 年 10 月 31 日
毎日新聞（朝刊）2006 年 10 月 31 日
京都新聞（夕刊）2006 年 10 月 30 日

龍谷大学ホームページ「時流」龍谷アカデミックラウンジ，2007 年 10 月 1 日～2008 年 1 月 1 日，「21 世紀の大谷探検隊、西へ」（4 回連載）

日本学術振興会　「2007 年度　ひらめき☆ときめきサイエンス　ようこそ大学の研究室」採択事業で、「アフガニスタン不思議な世界」を高校生対象に行う。　2007 年 12 月 16 日

６．研究組織
(1)研究代表者
入澤　崇（IRISAWA TAKASHI）
龍谷大学・経営学部・教授
研究者番号：10223356

(2)研究分担者
宮治　昭（MIYAJI AKIRA）
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：70022374

吉田　豊（YOSHIDA YUTAKA）
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：70022374

(3)連携研究者
山田　明爾（YAMADA MEIJI）
龍谷大学・仏教文化研究所・研究員
研究者番号：20081177

井上　陽（INOUE AKIRA）
龍谷大学・仏教文化研究所・研究員
研究者番号：00425042